

IACR 第 6 回総会（1984 年）の概要と反省－第 32 回総会に備えて

I. はじめに

第 32 回 IACR（国際がん登録学会）総会を 2010 年（平成 21 年）に日本で開くよう IACR 理事会で要請された、とのニュースを聞き、直ちに 1984 年（昭和 54 年）福岡市で第 6 回 IACR 総会を開いた時の苦汁の経験を思い出し、「前車の轍を踏まない」よう、福岡での経験を記述しておくこととした。会長（重松峻夫当時福岡大教授）が既に亡くなられているため、後述するように開催に努力された花井彩博士*保管の資料を基礎とし、藤本と花井博士との記憶に頼って、本文を作成した。従って一部に記述もれ、記述の誤り、などがあるかも知れないが、御許し戴きたい。

*：当時大阪府がん登録室長、後に IACR アジア地域代表理事、IACR 事務局長、地域がん登録全国協議会事務局長、同顧問を歴任。

II. 第 6 回 IACR 総会（1984 年）の概要

1. 開催年、場所、関係団体

IACR 第 6 回総会は、1984 年 9 月 27 日～29 日に、福岡市ガーデンパレス（ホテル）で開催された。

会長は重松峻夫福岡大名誉教授（故人）、後援団体は厚生省（当時）、福岡県、福岡県医師会、福岡市（政令市）、福岡市医師会、福岡対がん協会で、実施面では福岡大学、産医大、佐賀大、関連学会（後述）などであるが、その他に、厚生省がん研究費よる「地域がん登録研究班」が大きな役割を果たした。

なお、開催場所、会長などの決定の経緯の詳細については、「Ⅲ-1（3-4 頁）」に記述した。

2. 委員会など

第 6 回総会の組織委員会、開催地組織委員会、顧問、ならびに事務局は表 1 に示すごとくである。

（表 1）

3. 総会のプログラム

総会のプログラム概要を表 2 に示す。

（表 2）

その当時、日本では地域がん登録研究班が国のがん罹患数および率の推計方式、将来推計方式を作り上げ、精度の比較的高い登録のデータを集めて集計、これを基礎として推

計を行い、毎年公表していた。また、登録データを用いて、病理疫学研究、がん検診の精度管理および評価、などの研究も開始されていた。

これらを日本で開かれる総会にて報告するべく、総会の第1主題は『地域がん登録資料の多面的利用と、その時の問題点』とした。第2主題として、「各国における地域がん登録の現況」をとりあげた。

応募された論文の中から主題に近いものに、口演発表をお願いした。

4. 参加人員数

総会には、海外諸国から43人、国内から129人、計172人の参加を得た。

国内外から出来るだけ多くの人に参加してもらうため、総会の公用語は日本語または英語とし、同時通訳システムを採用した。

講演者には、翻訳者のために、抄録とともに事前に全文（和文又は英文）を提出してもらうように依頼した。

第6回総会の開催日程および開催地は、関連学会のそれらを考慮してきめられた（Ⅲ-1、3-4頁参照）。

5. 同時通訳方式

第6回総会で同時通訳方式を採用（イヤホンは希望する参加者全員に配布）したが、当時は、総会会場にそのための設備がなく、また、3日間にわたって同時通訳を受託する業者も福岡周辺には見当たらず、結局、通訳放送設備と通訳者とは大阪の業者と契約した。そのため、その経費は相当高くなり、演者にも前述のように演説原稿の事前提出を依頼した（専門用語の翻訳をするため）。

英会話のレベルが当時に比べ、現在は向上しているとはいえ、このシステムの採用を広報することによって参加を促す効果があったことと、総会参加者の相互理解を深めることに役立ったと考えている。第32回総会時にこの対応を検討しておきたい。

6. 冊子の配布

IACR 総会では、開催国の地域がん登録制度の概況、その成績などをまとめた資料を、総会参加者に配布する場合が多い。わが国では、既に、既述の「地域がん登録」研究班が、毎年、全国がん罹患数・同率を推計していたので、この研究班が「Cancer incidence in Japan, 1975-1979, written by Fukuma, Hanai et al」を冊子として作成し、総会参加者全員に配布した。

7. 総会事務局

総会開催までは、福岡大学公衆衛生学教室（表1参照）に総会事務局を置き、総会開催中はホテル・ガーデンパレス内に移動した。総会専用のゼロックス機を業者から借入れ

ホテルに持ち込んで、講演者から依頼された当日配布用資料のコピー作業などに備えたが、これが多忙を極め、機械はフル運転した。

8. 組織委員会

総会の全体運営、プログラムの作成、ことに海外諸国の演者、演題の選定には、Muir 博士（IACR 事務局長代理）の努力が大きな比重を占めた。同博士のそれまでの IACR に対する貢献と、世界各地のがん登録活動の内容、担当者を熟知されていたことによるものであり、同氏のお蔭で、第 6 回総会は成功したといっても過言ではない。第 32 回総会においても、このような人（複数でもよい）をえることが重要と考える。

日本国内と Muir 博士との連絡、交信には、主として telex を使用し、花井博士と藤本とが担当し、重松会長と福間研究班班長の応援をえた。そのため次のようなホットラインを設けた。

9. ホットラインの設置

当時、海外諸国と日本との至急通信には、電報、電話、telex しかなく、前 2 者は価格面、時差面で利用し難かった。IARC には telex 装置が既に設置されており、IACR にも使用が許されていた。一方、日本では、公的施設（たとえば大阪府立成人病センター）には、telex 装置が設置されておらず、たとえ設置されたとしても、これを学会用（私用とみなされる）に利用することは不可能とわかった。しかも、学会が自費負担で公的施設の内に設置することも、不可能とわかった。

このような情勢の中で、止む無く、藤本の親戚にあたる貿易会社の社長（故人）にお願いして、『IARC から同社の東京支社に telex letter を送信してもらい、東京支社の社員が、大阪の社長に、その文章を電話で読みあげ、さらに社長が成人病センターの花井又は藤本に電話で読みあげるというルート』を開拓した。この電文を電話又はファックスで、重松、福間両博士に伝達した。

大阪から IARC に送る場合は、花井博士が英文に翻訳し、これを JR 大阪駅の近くにあった国際電電大阪支店まで持ってゆき、同所の telex 装置を利用して IARC に送信した。

今は、インターネットによる e-mail などのシステムにより、上述のような努力の必要はなくなった。しかし、最も重要な作業—総会で講演をする国内、国外の演者を見つけ出せる人、総会の組織委員会の中心になりうる人を選び出す作業—が残されている。

10. 経費

総会開催のための経費は、IACR からの開催助成金、各種団体からの寄付、参加者の経費負担によった。この時、寄付金の募集について、厚生省の後援をえた。なお、この種の経費は、意外に多額となり易いので、次の会の開催準備にあたっては、支出には充分注意されたい。

11. 研究会の開催

「地域がん登録」研究班は、この機会をとらえ、IACR 総会の終了直後に、「がん登録における精度管理とスタッフの研修」に関する研究会を福岡で開催した。第6回総会に出席された Young 博士（米国国立がん研究所人口統計解析部、SEER プログラム班長）と Zippin 博士（カリフォルニア大学サンフランシスコ校教授*）を講師として招請した。その講演内容は、同研究班の昭和59年度報告書（主任研究者福間誠吾）（昭和60年1月刊行）の藤本、花井共著論文（161-177頁）の中に、全訳文を掲載している。

*：米国国立がん研究所の委託を受けて、病院及び地域がん登録職員の研修課程を開発しておられた。

III. 前者の轍

1. 第6回総会開催までの経緯

1983年、なぜか藤本が IACR アジア地域代表理事に当選した（それ以前は、瀬木三雄博士（東北大学名誉教授）が初代理事を、赤崎兼義博士（愛知県がんセンター名誉研究所長）、栗原 登博士（東北大学助教授、広島大原医研教授）が2、3代目理事を務められた）。その関係からか、当時 IACR の中心になって活動しておられた Muir 博士（IACR 事務局長代理、IARC 記述疫学課長）が大阪に来られ、IACR 理事会代表として次の提案をされた。

『(1) IACR は、国際癌学会開催の都度（4年ごと）、総会を開いてきたが、これでは地域がん登録を世界各国にひろげてゆくのに時間がかかりすぎる。そこで、(2) 第4回、第5回 IACR 総会は、UICC 癌シンポジウムの開催にもあわせて、2年ごとに開催した。

(3) さらに、IACR としては、1984年から毎年、総会を開くこととした。』(4) ところで、1984年に UICC が福岡市で消化器癌のシンポジウムを開催する（注）ので、これとの関連で日本国内のどこかで第6回 IACR 総会を開くよう、考えてもらえないか。

この提案を受けて、藤本は日本の状況を次のように説明しながら、Muir、花井両博士と意見を交換しつつ、素案を考え、提案した。

（注）福岡市で UICC シンポジウムが1984年9月30日～10月2日（井口潔会長）に開催、これに続いて同年10月3日～5日（遠藤英也会長）に日本癌学会が、同市で開催の予定であった。

(1) 当時、日本国内では13道府県市でがん登録が行われていたが、国としての組織を厚生省は持っておらず、厚生省がん研究助成金による研究班（前述）が、全国的なとりまとめをしてきた（主任研究者は、1975-80年は藤本、1981-86年は福間誠吾千葉県がんセンター長）、(2) しかし、IACR 総会参加者の利便を考えると、千葉市での開催よりも UICC シンポジウムの開催地（福岡市）で開催するのがよいのではないかと、(3) 日

本ではまだ、府県がん登録室が単独で IACR 総会を開ける能力をもっていないので、国および研究班の協力を得ることが必要、(4) 医科大学の協力をえやすい所がよい、(5) 総会会長は次期 IACR 理事（アジア地域代表）に推される確率が高い。これらを考え合わせて藤本は、会長に重松峻夫博士（福岡大学教授、福岡県がん登録室長）を、開催地として福岡市を、それぞれ推薦し、Muir 博士の同意を得た。これに基づき、Muir 博士と藤本は、直ちに国外、国内に手分けして、第 6 回総会の開催関係者各位の意向を打診することにした。

こうして第 6 回総会の開催準備が始まった。

〔反省〕以上の経過には、わが国において地域がん登録制度が未成熟であったためとはいえ、国として、制度的、組織的に総会開催を受諾する手続きがとれなかったことに、心残りがある。現在は、国としての対がん計画の中心が厚労省内におかれ、国立がんセンターに全国がん登録システムの技術中心が育ちつつあり、一方、各地のがん登録室を連携する組織である地域がん登録全国協議会が長年にわたり、活動している。従って、第 32 回総会は、上記 3 団体が結集して、準備、開催の中心となるべきものとする。協議会としては、その理事会において、総会の原案を作成し、これを上記の三者会議に提出すべきである。

2. 総会における日本国としての対応

前項に述べた三人の合意に従い、藤本が関係各位の了解、承諾をえてゆく途中で、厚生省との交渉に最も困惑した。当時、地域がん登録を含め、国のがん対策は、幾つかの局、課に分かれて担当されていた。そのため、各課を廻って趣旨、経過の説明と、出席、講演の依頼とをした。その結果、寄付金の募集について後援して戴いたのは有難かったが、組織委員会からの講演依頼（国のがん対策を説明し、がん登録についての考えを述べて戴く）については困難と判定された（事務分掌との関係からか？）。結局、慣例に従って、国際課の医系技官が出席して、歓迎の辞を述べて戴くことになった。

IACR 総会のそれまでの各国における開催、ならびにその後の開催においての、各主催者側の対応をみると、国のがん対策責任者（又はこれに代わる人）が出席して歓迎の辞を述べると共に、国のがん対策について講演し、各国の出席者とも個別に交流され、さらには、国が後援して、交流を目的とする会を別に開くこともある。そのような性格を、この IACR 総会は持っていることを、藤本は痛感していたが、不徳の致すところにて、そのことを、わが国の厚生省の方々に、結果として理解してもらえなかったことを、今も恥ずかしく思い出している。国は、当時既に、府県がん登録が持っていた資料を利用して、第 4 次悪性新生物実態調査（厚生省、1979 年）を行い、それまでの国のがん対策の評価成績を公刊しており、その成果が認められて、1987 年度の老人保健法の中に、地域がん登録事業を国庫補助対象として繰入れることになっていたにも拘らず、こうした活動を世界各国に紹介する機会を失った。痛恨の極みである。

〔反省〕第 32 回総会では、厚労省がん対策推進本部と国立がんセンター、ならびに全国協議会の三者が集まって、わが国のがん対策の歴史、特に第 1 次～第 5 次実態調査、対がん 10 ヶ年戦略でのがん患者情報の収集についての取り組み、などを述べ、現在、国立がんセンターを中心としたがん登録の全国組織の確立に進んでいることを、総会参加者に紹介してもらいたい。講演者は、対策面は厚労省、技術面は国立がんセンターが担当されたい。歓迎の辞に止まらず、出席される各国の代表者（又はそれに相当する人）との交流を深めてもらいたい。

また、総会で実務を担当する方々に、会全体の運営予定の詳細を知っておいてもらうこと、ホスピタリティー（参加者をもてなす態度）の良し悪しが、参加者に大きな影響を与えることを知ってもらい、実践してもらいたい。

こうした対応が、総会参加者の心に、開催国の印象を深く残すものであると考える。

3. 総会のメイン・テーマ

藤本の考えでは、面倒な仕事をするのであるから、総会では、国益になるテーマを主題にすべきである。以下にその試案を述べる。

- (1) わが国におけるがん患者情報の収集、解析システムの歴史と将来
イ、『成人病予防対策協議連絡会の答申』（1957 年）から始まったがん対策の内容（経過）を述べ、各時期でのがん登録の法的根拠、さらには、近年のこれに関する活動についても言及する。（厚労省担当）
ロ、国としてのがん登録システムの構築構想。（国立がんセンターが担当）
ハ、上記 2 題について、海外の学者に、予め Discussion を依頼しておく。
- (2) 患者情報の収集、転送に関する「患者の拒否権」
イ、いくつかの国での現状
ロ、特異な方法で克服した国の状況ードイツ、韓国など
- (3) national registry と regional registry とが並存している国から、両者の役割と、両者の関係とを報告してもらおう。
- (4) regional registry が、地域社会のがん医療に対して、どのような貢献が出来るか、を報告してもらおう。また一国で 1 つの登録室の場合は、どのようなものであるか。
- (5) その他、各種の主題を設定、討論しておく。
- (6) 総会のプログラムは、前記の三者会議で討論し、会長が指名した組織委員会で決定する。

IV. おわりに

以上、第 6 回総会の概況と、今に残る反省とを述べ、第 32 回総会に備えての私見を述べた。お役に立てば、幸せです。

(文責：藤本伊三郎)

表 1. 第 6 回総会 IACR の編成

第 6 回総会会長 重松峻夫 (福岡大学医学部教授)

組織委員会 (IACR 理事会メンバーと総会会長)

IACR 理事会メンバー

President	Dr. P. Correa
Secretary General	Dr. E. Saxen
Deputy Secretary General	Dr. C. S. Muir
Regional Representative	Dr. I. Fujimoto, Dr. J. Ford
第 6 回総会会長	Dr. T. Shigematsu

開催地組織委員会 (委員長: 重松峻夫)

藤本伊三郎 (IACR アジア地域代表)
重松 峻夫 (福岡大学医学部公衆衛生学教授)
石田正太郎 (福岡県医師会長)
佃 篤彦 (福岡県衛生部長)
阿部 輝明 (福岡市医師会長)
佐藤 善郎 (福岡市衛生局長)
清沢又四郎 (福岡県対がん協会会長)
吉村 健清 (産業医科大学臨床疫学教授)
徳留 信寛 (佐賀医科大学地域保健科学助教授)

顧問

福間 誠吾 (千葉県がんセンター所長)
平山 雄 (国立がんセンター研究所疫学部長)
富永 祐民 (愛知県がんセンター疫学部長)
青木 國雄 (名古屋大学医学部予防医学教授)
花井 彩 (大阪府立成人病センター調査部)
庄司 忠実 (宮城県立成人病センター所長)

事務局

福岡市城南区七隈 7 丁目 45 番 1 号
福岡大学医学部公衆衛生学教室内
「1984 年国際がん登録学会」事務局
重松 峻夫
増田 登

表 2. IACR 総会プログラム概要

INTERNATIONAL ASSOCIATION OF CANCER REGISTRIES (IACR).
ANNUAL SCIENTIFIC MEETING, FUKUOKA, JAPAN.
SEPTEMBER 27 ~ 29. 1984.

“Application of Cancer Registry
— And Some Problems”

Thursday 27 September

08:30 ~ 10:00	<p>OPENING CEREMONY</p> <p>Opening Remarks Dr. C. S. Muir</p> <p>Welcome Address</p> <p style="padding-left: 40px;">Ministry of Health and 6 & Welfare Governor of the Fukuoka Prefecture</p> <p>Presidential Address Dr. K. Shanmugaratnam</p> <p>BUSINESS MEETING</p> <p>Activities of the IACR Dr. C. S. Muir</p> <p>SPECIAL REPORT</p> <p>Report of the Annual Meeting 1983 of the IACR in Heidelberg Dr. G. Wagner</p>
10:00 ~ 10:20	————— <i>Coffee Break</i> —————
10:20 ~ 11:05	<p>KEYNOTE ADDRESS</p> <p>The Cancer Registry - past and future Dr. J. Clemmesen(Denmark)</p>
11:05 ~ 11:30	<p>SPECIAL PRESENTATION</p> <p>Population-based Cancer Registries in Japan Dr. S. Fukuma</p>
11:30 ~ 12:30	<p>CANCER REGISTRATION IN VARIOUS COUNTRIES(I)</p> <p>I - 1 Cancer Registration in the U.S.A. Dr. J. L. Young Jr.</p> <p>I - 2 Cancer Registration in the U.K. Mr. R. G. Skeet</p> <p>I - 3 Cancer Registration in the U.S.S.R. Dr. N. P. Napalkov</p> <p>I - 4 Cancer Registration in Canada Dr. E. A. Clarke</p>
12:30 ~ 13:50	————— <i>Lunch</i> —————
13:50 ~ 14:50	<p>CANCER REGISTRATION IN VARIOUS COUNTRIES(II)</p> <p>I - 5 Cancer Registration in Australia Dr. J. M. Ford</p> <p>I - 6 Cancer Registration in China Dr. Jin. Fan</p> <p>I - 7 Cancer Registration in Hungary Dr. S. Eckhardt</p> <p>I - 8 Cancer Registration in India Dr. L. D. Sanghvi</p>
14:50 ~ 15:30	<p>PROFFERED PAPERS (2)</p>
15:30 ~ 15:50	————— <i>Coffee Break</i> —————
15:50 ~ 17:20	<p>ROLE OF CANCER REGISTRY IN SCREENING PROGRAMMES</p> <p>I - 11 The Linkage of Mass Screening Data with the Cancer Registry Dr. S. Hisamichi(Miyagi)</p> <p>I - 12 The Role of a Population-based Cancer Registry in Monitoring and Evaluating Cancer Screening Programs Dr. A. Oshima(Osaka)</p> <p>I - 13 Trends in the Incidence of Cancer of the Cervix Uteri in Various Parts of Denmark in Relation</p>

	to Smear Taking Activity	Dr.O.M.Jensen(Denmark)
	Discussion	
17:20 ~ 18:20	PROFFERED PAPERS (3)	
Friday 28 September		
08:30 ~ 10:00	ROLE OF CANCER REGISTRY IN CANCER CONTROL PROGRAMMES	
II - 1	The Role of the Cancer Registry in Comprehensive Cancer Control Programmes	Dr. T. P. Maramba Jr. (Philippine)
II - 2	The Cancer Registry in Cancer Control in Osaka, Japan	Dr. I. Fujimoto(Osaka)
II - 3	The Role of Cancer Registry in the Estimation of Survival	Dr. J. L. Young Jr. (U.S.A.)
	Discussion	
10:00 ~ 10:20	————— <i>Coffee Break</i> —————	
10:20 ~ 12:00	PROFFERED PAPERS (5)	
12:00 ~ 13:20	————— <i>Lunch</i> —————	
13:20 ~ 14:50	ROLE OF CANCER REGISTRY IN AETIOLOGICAL STUDIES	
II - 9	The Cancer Registry As a Tool to Detect Industrial Risks	Dr.O.M.Jensen(Denmark)
II - 10	An Analysis on Geographic Variation of Lung Cancer Incidence in Japan	Dr. M. Murata (Chiba)
II - 11	Uses of Histological Data in the Population-based Cancer Registry	Miss. A. Hanai (Osaka)
	Discussion	
14:50 ~ 15:10	————— <i>Coffee Break</i> —————	
15:10 ~ 16:30	PROFFERED PAPERS (4)	
16:30 ~ 18:10	PROFFERED PAPERS (5)	
18:40 ~ 20:30	RECEPTION Garden Palace 3F Room "Aso"	
Saturday 29 September		
8:30 ~ 9:50	PROFFERED PAPERS (4)	
9:50 ~ 11:20	ROUND TABLE DISCUSSION "PROBLEMS IN CANCER REGISTRATION"	
III - 5	Completeness of Coverage	Mr. R. G. Skeet (U.K.)
III - 6	Funds and Staffing	Dr. T. Shigematsu (Fukuoka)
III - 7	Proposed Neoplasm Chapter for ICD-10	Mrs. C. Percy (U.S.A.)
III - 8	Confidentiality	Dr. C. S. Muir (IACR)
	Discussion	
11:20 ~ 11:40	————— <i>Coffee Break</i> —————	
11:40 ~ 13:00	PROFFERED PAPERS (4)	
12:30	CLOSING CEREMONY	

表 3. IACR 総会の開催年、開催地、会長名の一覧

	Date	Site (Theme)	President or Chairman (Secretary)
1	1970	Houston USA	
2	1974	Buenos Aires Argentina	
3	1978	Montecatini Italy	
4	July 29, 1980	Oslo Norway	Knut Mugnus
5	1982	Seattle USA	
6	Sep.27-29, 1984	Fukuoka Japan (Theme: <i>Application of Cancer Registry—And Some Problems</i>)	Takao Shigematu
7	Oct.10, 1985	Hartford USA	Connecticut Tumor Registry
8	Aug.19-21, 1986	Budapest Hungary	
9	1987	Copenhagen Denmark	Ole Moller Jensen
10	Nov.14-17, 1988	Melbourne Australia (Theme: <i>Diet and Cancer, Uses of Migrants in Cancer Epidemiology, etc.</i>)	Graham Giles
11	Sep.17-20, 1989	Maastricht The Netherlands	F. de Waard
12	Aug.16-22, 1990	Hamburg Germany	
13	Oct.7-8, 1991	Quito Ecuador (Theme: <i>Poverty and Cancer</i>)	Fabian Corral
14	June28-30,1992	Ottawa Canada (Theme: <i>Cancer and the Environment, Registries and Cancer Control</i>)	John Silins
15	Sep. 13-16, 1993	Bratislava Slovakia (Theme: <i>Cancer in the Aging World, Environmental Pollution and Cancer, The Central Position of the Registry in Prevention and Control of Cancer, Methodological Problems in Cancer Registration.</i>)	Ivan Plesko
16	Oct. 25-28, 1994	Bangalore India (Theme: <i>Cancer in Women, Cancer Control etc.</i>)	D. J. Jussawalla (A. Nandakumar)
17	Oct. 28-29, 1995	Rio de Janeiro Brazil	
18	Sep. 3-5, 1996	Edinburgh UK (Theme: <i>Survival</i>)	Charles Gillis
19	Oct.31,-Nov.2,1997	Abidjan Ivory Coast (Cote d'Ivoire) (Theme: <i>Infection and Cancer</i>)	A. Echimane
20	Aug. 17-19, 1998	Atlanta, USA	William H. Foegen
21	Sep.29,-Oct.2,1999	Lisbon Portugal (Theme: <i>Screening, etc</i>)	Edward Limbert
22	Nov. 8-10, 2000	Khon Kaen Thailand (Theme: <i>Cervix Cancer Prevention etc.</i>)	Vanchai Vatanasapt
23	Oct.3-5, 2001	Havana Cuba (Theme: <i>Epidemiology of Cervix Cancer etc.</i>)	Leticia Fernandez
24	June 26-28, 2002	Tampere Finland (Theme: <i>Registries in Cancer Research</i>)	Timo Hakulinen
25	June 16-18, 2003	Honolulu USA (Theme: <i>Cancer Registration and Surveillance, Around the World</i>)	M. T. Goodman
26	Sep. 14-16, 2004	Beijing China (Theme: <i>Promoting Cancer Registration in Developing Countries & Enhancing Cancer Prevention and Control in the World</i>)	Ping Zhao
27	Sept. 13-15, 2005	Entebbe Uganda (Theme: <i>Cancer in Low-resource Populations</i>)	R. Ovor (H. Wabinga)
28	Nov. 8-10, 2006	Goiania Brazil (Theme: <i>Cancer and Environment</i>)	Criseide de Castro Dourado, (Maria Paula Curado)
29	Sep. 18-20, 2007	Ljubljana Slovenia (Theme: <i>The Role of Cancer Registries in Cancer Control</i>)	Zvonimir Rudolf, (Maja Primic Žakelj)

(花井作成資料)

花井 注：

この表には示していないが、Sep. 6-8, 1983. に Heidelberg (FRG) で G. Wagner 博士 (西ドイツがん研究センター) の下に「がん患者と社会に対するがん登録の貢献」という主題で IACR の会議が開かれている。

IACR Annual Scientific Meeting, 1984
Fukuoka, Japan

Programme

International Association of Cancer Registries

"Garden Hall"
Garden Palace, Tenjin, Chuoh-ku
Fukuoka City

27~29 September 1984

Supported by

Ministry of Health and Welfare
Fukuoka Prefecture
Fukuoka Medical Association
Fukuoka City
Fukuoka City Medical Association
Fukuoka Cancer Society

Programme Committee

P. Correa
E. Saxon
C. S. Muir
I. Fujimoto
T. M. Ford
T. Shigenatsu

Local Organizing Committee

T. Shigenatsu (Chairman)
T. Abe
I. Fujimoto
S. Ishida
M. Kiyosawa
Z. Sato
S. Tokudome
A. Takuda
T. Yoshimura

Adviser

K. Aoki
S. Fukuda
A. Hasei
T. Hirayama
T. Shoji
S. Tomiwaaga

**"Applications of Cancer Registry
— And Some Problems"**

Thursday 27 September

8:30 ~ 10:00 OPENING CEREMONY

Opening Remarks **Dr. C. S. Muir**
Welcome Address

Ministry of Health & Welfare
Governor of the Fukuoka Prefecture

Presidential Address **Dr. K. Shanougerabum**

BUSINESS MEETING

Activities of the IACR **Dr. C. S. Muir**

SPECIAL REPORT

Report of the Annual Meeting 1983 of
the IACR in Heidelberg **Dr. G. Wagner**

10:00 ~ 10:20

Chairman: **Dr. M. Kurihara**

Office Break

10:20 ~ 11:05 KEYNOTE ADDRESS

The Cancer Registry - past and future
Dr. J. Christensen (Denmark)

Chairman: **Dr. O.M. Jensen, Dr. I. Fujimori**

11:05 ~ 11:30 SPECIAL PRESENTATION

Population-based Cancer Registries
in Japan **Dr. S. Fukuma (Chiba)**

11:30 ~ 12:30 CANCER REGISTRATION IN VARIOUS COUNTRIES (I)

- I-1 Cancer Registration in the U.S.A. **Dr. J.L. Young Jr.**
- I-2 Cancer Registration in the U.K. **Dr. R.G. Street**
- I-3 Cancer Registration in the U.S.S.R. **Dr. N.N. Naglikov**
- I-4 Cancer Registration in Canada **Dr. E.A. Clarke**

12:30 ~ 13:30

Lunch

Thursday 27 September

Chairman: **Dr. T.P. Maranda Jr., Dr. K. Aoki**

13:50 ~ 14:30 CANCER REGISTRATION IN VARIOUS COUNTRIES (II)

- I-5 Cancer Registration in Australasia **Dr. J. McFord**
- I-6 Cancer Registration in China **Dr. Jin Fan**
- I-7 Cancer Registration in Hungary **Dr. S. Eolhardt**
- I-8 Cancer Registration in India **Dr. L.D. Sangavi**

14:50 ~ 15:30 PROFFERED PAPER

- I-9 Tumor Registry & Tissue Registry
in Hiroshima and Nagasaki **Dr. T. Wakabayashi (Nagasaki)**
- I-10 The Children's Cancer Registry
in Japan **Dr. N. Kobayashi (Tokyo)**

15:30 ~ 15:50

Coffee Break

Chairman: **Dr. E.A. Clarke, Dr. T. Yoshimura**

15:50 ~ 17:20 ROLE OF CANCER REGISTRY IN SCREENING PROGRAMMES

- I-11 The Linkage of Mass Screening Data with
the Cancer Registry **Dr. S. Hisanouchi (Miyagi)**
- I-12 The Role of a Population-based Cancer
Registry in Monitoring and Evaluating
Cancer Screening Programs **Dr. A. Oshima (Osaka)**
- I-13 Trends in the Incidence of Cancer of the Cervix
Uteri in Various Parts of Denmark in Relation
to Smear Taking Activity **Dr. O.M. Jensen (Denmark)**

17:20 ~ 18:20 PROFFERED PAPER

- I-14 Evaluation of Gastric Mass Surveys by
Cancer Registry **Dr. A. Suyama (Tokyo)**
- I-15 Evaluation of the Mass Examination for
Uterine Cancer **Dr. T. Ishida (Hyogo)**
- I-16 Utility of the Cancer Registry in Trend
Monitoring, Design, as well as Conduct
of Prospective and Retrospective
Studies in Alberta, Canada **Dr. T.O. Siu (Canada)**

Friday 28 September

Chairman: Dr. G. Wagner, Dr. T. Nose

8:30 ~ 10:00 **ROLE OF CANCER REGISTRY IN CANCER CONTROL PROGRAMMES**

- II-1 The Role of the Cancer Registry in Comprehensive Cancer Control Programmes
Dr. T. P. Marubata Jr. (Philippines)
- II-2 The Cancer Registry in Cancer Control in Osaka, Japan
Dr. I. Fujimoto (Osaka)
- II-3 The Role of Cancer Registry in the Estimation of Survival
Dr. J. L. Young Jr. (U.S.A.)

Discussion

10:00 ~ 10:20

Coffee Break

Chairman: Dr. C. Zippin, Dr. K. Mabuchi

10:20 ~ 12:00 **PROFFERED PAPER**

- II-4 Uses of Population Based Cancer Registry Data for Primary and Secondary Cancer Prevention
Mrs. R. Inoue (Kanagawa)
- II-5 An Online System for Cancer Registration: The South Thames Experience
Mr. R. G. Skeet (U.K.)
- II-6 Plans for a "Directory of Computer Systems Used in Cancer Registries"
Mr. H. R. Menck (U.S.A.)
- II-7 Record Linkage in Cancer Registration
Dr. E. A. Clarke (Canada)
- II-8 Computer Assisted Epidemiology Using Data from a Population Based Cancer Registry
Dr. S. Balie (U.S.A.)

12:00 ~ 13:20

Zenok

Friday 28 September

Chairman: Dr. J. M. Ford, Dr. S. Teramige

13:20 ~ 14:50 **ROLE OF CANCER REGISTRY IN AETIOLOGICAL STUDIES**

- II-9 The Cancer Registry As a Tool to Detect Industrial Risks
Dr. O. M. Jensen (Denmark)
- II-10 An Analysis on Geographic Variation of Lung Cancer Incidence in Japan
Dr. M. Murata (Osaka)
- II-11 Uses of Histological Data in the Population-based Cancer Registry
Miss A. Hama (Osaka)

Discussion

14:50 ~ 15:10

Coffee Break

Chairman: Mr. R. G. Skeet, Dr. T. Hirohata

15:10 ~ 16:30 **PROFFERED PAPER**

- II-12 Prediction of the Future Incidence of Cancer in Japan
Mr. H. Arai (Tokyo)
- II-13 Familial Clustering of Cancer
Dr. H. Ogawa (Aichi)
- II-14 First Year of Activity of the Genoa Cancer Register
Dr. M. Vercelli (Italy)
- II-15 The Cancer Atlas of the Federal Republic of Germany - Second Edition
Dr. G. Wagner (F.R.G.)

Chairman: Dr. J. L. Young Jr., Dr. S. Tokudome

16:30 ~ 18:10 **PROFFERED PAPER**

- II-16 Descriptive Epidemiology and Natural History of Neoplasms of the Brain in Children of Manitoba, Canada
Dr. N. W. Choi (Canada)
- II-17 Tissue Registry in Nagasaki, With Data of Atomic Survivors
Dr. T. Ikeda (Nagasaki)
- II-18 An Epidemiological Study on the Relationship between Drinking Water and the Cancer Mortality in Aichi Prefecture
Dr. I. Kato (Aichi)
- II-19 Cancer in Utah
Mr. D. W. West (U.S.A.)
- II-20 Carcinoma of the Cardia 1960-1969
Mrs. C. Roginski (U.K.)

18:40 ~ 20:30 **RECEPTION** Garden Palace 3F Room "Aso"

Saturday 29 September

Chairman: Dr. N. W. Choi, Dr. M. Kuratsune

8:30 ~ 9:50 **PROFFERED PAPER**

III-1 Will Polypectomy As It Is Practiced Now Reduce the Incidence and the Severity of Colorectal Cancer? Dr. J. Faivre (France)

III-2 Mesothelioma in Osaka, 1967-1982 Dr. K. Morimaga (Osaka)

III-3 Incidence of Soft-tissue Sarcomas in Sesevo Area Dr. R. Puntoni (Italy)

III-4 Recent Trends in Childhood Leukemia in Upstate New York: Mortality, Incidence, Survival, and Second Primary Cancer Mr. A. P. Palodak (U.S.A.)

Chairman: Dr. K. Shannuguratham, Dr. T. Hirayama

9:50 ~ 11:20 **ROUND TABLE DISCUSSION "PROBLEMS IN CANCER REGISTRATION"**

III-5 Completeness of Coverage Mr. R. G. Skeet (U.K.)
III-6 Funds and Staffing Dr. T. Shigematsu (Fukuoka)
III-7 Proposed Neoplasm Chapter for ICD-10 Mrs. C. Percy (U.S.A.)
III-8 Confidentiality Dr. C. S. Muir (IACR)

Discussion

11:20 ~ 11:40

Coffee Break

Chairman: Dr. S. Eckhardt, Dr. S. Hisanishi

11:40 ~ 13:00 **PROFFERED PAPER**

III-9 On the Assessment of Reliability of Cancer Registration Mrs. Y. Okano (Miyagi)

III-10 Evaluation of Activities to Improve Completeness and Accuracy in a Population-based Cancer Registry in Saga Prefecture Dr. S. Tokudome (Saga)

III-11 International Death Certificate Study: Comparison of Coding Underlying Cause of Death by ICD-9 in Different Countries Mrs. C. Percy (U.S.A.)

III-12 Quality Control Study of SEER Program Data Dr. C. Zippin (U.S.A.)

13:30 ~ **CLOSING CEREMONY**

General Information

Registration is open in the front lobby at the Garden Palace 3:00 p.m. to 6:00 p.m. on September 26 and from 8:00 a.m. on September 27 to 29.

A Congress Office is located at the Room "Urme" on the 4th floor of the Garden Palace from 3:00 p.m. September 26 till noon September 29.

Slides should be submitted to slide reception at least 30 minutes before presentation. Slides will be handed back at the same reception. Please come to collect them after presentation.

Person who want to have a preview of the slides, please contact with information desk.

For simultaneous translation, get a receiver before entering the Meeting Hall. Please do not forget to hand it back when you leave the Meeting Hall.

Typewriter and copy machines is available at the Congress Office (4F). Please contact with information desk.

Lunch can be taken at the dining room "Azules" on the 2nd floor and snack at the Coffee Shop on the 1st floor in the Garden Palace.

Restaurant near by the Hotel, please see Restaurant Guide.

Parking space is not available at the Garden Palace.